



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL:03-5363-3802 FAX:03-3355-4707
発行者：今野弘之
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長
和田則仁(慶應義塾大学医学部外科学教室)
印刷：株式会社 dig TEL:03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

日本部会代表を終えて

大分大学 学長
北野 正剛



故北島政樹 Court of Honor のご推挙を得て、北川雄光代表の後、2015年より4年間 ISS/SIC の運営に携わり、無事、今野弘之代表にバトンタッチできたことに安堵するとともに、会員の皆様のご支援に心から感謝申し上げます。毎年3月本部があるチューリッヒ近くで2日間、そしてACSの際の丸1日の理事会は、英語を母国語とする理事が多い中、時折、時事問題やローカルな話題も多く苦勞も多いものでした。しかし、これまでの日本の貢献が高く評価され、その運営に一定のスタンスを示すことができたものと思っています。1902年創設、1905年に第一回総会がTheodor Kocher 会長の下開催された世界で最も歴史と伝統のある本会には中国が台頭する中であっても、日本への期待は大きく会員の皆様のご協力をお願いいたします。小生は、1991年ストックホルム大会で、初めてISS/SIC にデビューしました。

留学先の恩師、南ア・ケープタウン大学ターブランシュ教授にパネリストとして指名され、当時は駆け出しの助手で日程が十分に取れず、ストックホルムに一泊のみの参加でした。テーマは門脈圧亢進症で、著名な研究者とディスカッションできたことがその後の、自信にもつながりました。95年故出月康夫会長によるリスボン、97年アカプルコ、99年ウィーン、2001ブリュッセル、03(バンコク大会は財政難で中止)、07ダーバン、09アデレード、11横浜、13ヘルシンキ、15バンコク、17バーゼル、19クラクフと毎回参加してきました。学会参加で最も鮮明に記憶に残る光景は01年

ベルギー大会での北島政樹教授の特別講演グレートナーレクチャーです。

福澤諭吉の紹介に始まり先生が取り組まれた先進医療さらには外科医としての生き方にまで言及されました。講演終了時には満席の参加者が総立ちで拍手がいつ終わるのかと思うほどのスタンディングオベーションでした。また2005年ダーバン大会では、空港ビル内のATMでカードを挿入したまま出てこないという詐欺にあい、相当額が引き出されていました。いまだにどんな方法でカードの情報を読み取り、悪用したのか不可解です。ATMの中に犯人が隠れていたのではと思うほどです。2007年北島政樹会長によるモンリオール大会ではカナダの紅葉の赤さに見とれ、2011年渡辺昌彦会長による横浜大会では小生が副会長として皇太子殿下のレセプションで司会させて頂き、当時の殿下の皆へのお心使いなど、素晴らしい経験をしました。

ISS/SIC については、まだまだ語りつくせない多くの思い出ばかりですが、こと学術的面ではその多くの記憶は抜け落ち、日常と異なるものだけが思い出として残っています。学問的なことは常に上書きされるからであるということにしたいと思います。

また駆け出しのころ国内では日頃話すことも出来ないような先輩外科医—我が国の外科を先導された著名な教授の皆様から親しく指導いただけたのもこの会への参加の大きな宝です。私自身は8年前に教授職を辞し、大学運営に携わり、更にあと4年、引き続き学長職を続けますので、何かしら、少しでも本会の発展に貢献できればと願っています。



クラクフの美しい夜景

訃報



慶應義塾大学医学部外科学専任講師
ISS/SIC 日本支部事務局長
和田 則仁

北島政樹先生 (Court of Honor, Honorary Member, ISS/SIC; Past President, ISS/SIC) は、去る2019年5月21日にご逝去されました。ここに生前のご厚誼を深謝し、ご冥福をお祈りするとともに、謹んでご連絡申し上げます。

故北島政樹先生 ご略歴

昭和16年8月2日生
令和元年5月21日逝去 享年77歳

ご略歴

昭和41年3月 慶應義塾大学医学部卒業
昭和48年5月 足利赤十字病院外科部長
昭和50年3月 医学博士学位授与(慶應義塾大学)
昭和50年4月 Harvard Medical School/Massachusetts General Hospital 外科フェロー
平成元年4月 杏林大学第一外科教授
平成3年5月 慶應義塾大学外科学教室教授
平成11年10月 慶應義塾大学病院病院長
平成13年7月 慶應義塾大学医学部医学部長
平成19年4月 慶應義塾大学名誉教授
平成19年4月 国際医療福祉大学副学長・三田病院病院長
平成21年7月 国際医療福祉大学学長
平成28年4月 国際医療福祉大学副理事長・名誉学長
平成31年4月 国際医療福祉大学熱海病院総病院長

主な公職歴

日本外科学会 第100回総会会長 名誉会長・名誉会員
日本内視鏡外科学会 名誉理事長
日本創傷治療学会 名誉会員 名誉理事長
日本癌治療学会 名誉会員 元理事長
日本コンピュータ外科学会 名誉会員 元理事長
日本消化器内視鏡学会 名誉会員
日本癌学会 名誉会員
日本胃癌学会 名誉会員
日本食道学会 名誉会員
日本腹部救急医学会 名誉会員
日本ヘリコプター学会 第10回学術集会会長 名誉会員
日本消化器癌発生学会 名誉会員
日本消化器病学会 功労会員

日本がん転移学会 功労会員
日本消化器外科学会 特別会員
日本臨床外科学会 特別会員
日本移植学会 特別会員
日本肝胆膵外科学会 特別会員
日本学術会議第19期・20期会員、第21期第二部副部長
慶應義塾大学医学部外科学教室 刀林会 理事長
American College of Surgeons (ACS), Honorary Fellow, Past Governor of Japan Chapter
American Surgical Association (ASA), Honorary Member
American College of Gastroenterology (ACG), Fellow, Past Governor of Japan Chapter
Royal College of Surgeons of England (RCS Eng.), Honorary Fellow
German Society of Gastrointestinal Surgery (GSGS), Honorary Fellow
German Society of Surgery (GSS), Honorary Fellow
Hungarian Surgical Society (HSS), Honorary Fellow
Italian Surgical Society (ISS), Honorary Member
International Society of Surgery (ISS/SIC), Past President, Honorary Member, Court of Honor
International Society for Digestive Surgery (ISDS), Past President, Consultant
International Gastric Cancer Association (IGCA), Past President, Honorary Member
International Sentinel Node Society, Past President
The New England Journal of Medicine, Editorial Board
Asian Journal of Endoscopic Surgery, Editor-in-Chief
World Journal of Surgery, Editorial Board
The British Journal of Surgery, Editorial Board
Annals of Surgical Oncology, Editorial Board
Visiting Professor of University of Hong Kong
Visiting Professor of Korea University

主な受賞歴

平成18年 第12回日本癌治療学会中山恒明賞
平成18年 慶應義塾大学平成18年度福澤賞
平成19年 ハンガリー共和国騎士勲章
平成21年 第14回日本癌学会長與又郎賞
平成23年 ポーランド国立ヴロツワフ大学名誉医学博士
平成23年 ハンガリー国立センメルweis大学名誉医学博士
平成25年 国際消化器外科学会 (ISDS) 『Kitajima Prize』創設

本学会への貢献

北島先生は1994年に万国外科学会に入会されて以来、本学会の発展に大きく寄与されてきました。2001年にブリュッセルで開催された記念すべき100周年の学会において栄誉あるGray Turner 記念講演の演者を日本人で初めて務められました。2005年に会長に就任、2007年にはモンリオールで開催された学会でCongress Presidentを務められました。その後、学会の財政基盤の健全化、ISDS(国際消化器外科学会)をIntegrated Societyとして受け入れることに尽力されるなどリーダーシップを発揮され、2013年に名誉会員に、2015年にはCourt of Honorに就任され、高所大所から学会の調整役を果たされました。

ごあいさつ

万国外科学会日本支部長
浜松医科大学 学長

President of ISDS
今野 弘之



この度、北野先生の後任としてISS/SIC日本支部長にご指名頂きました浜松医科大学の今野です。北野前支部長の様に軽々と責務をこなす力量はありませんので、何卒、先生方のご指導、ご支援を宜しくお願い致します。さて、本年8月11日から15日までポーランドの古都Krakowで開催された第48回WCS2019は、お陰様で盛会裏に終了しました。お盆の時期にも関わらず、日本からも多くの先生方にご参加頂き、心から感謝致します。Krakowは歴史のある美しい町で、猛暑の日本には申し訳ないぐらいの快適な気候でした。ご家族と一緒に来られ、観光も楽しまれた先生方も多かったようです。

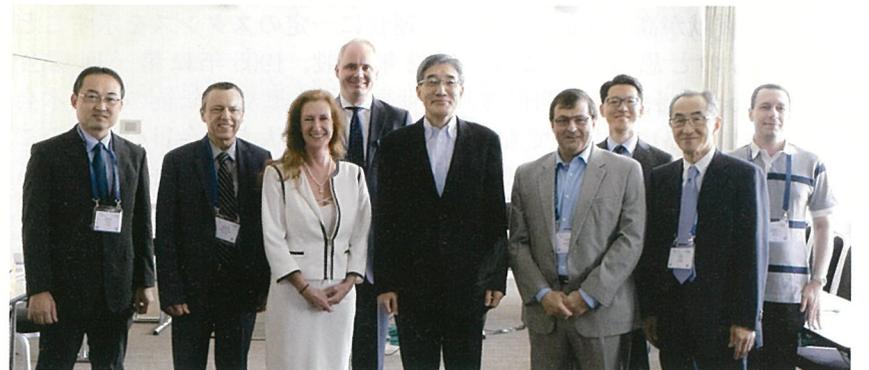
今回はIASMENの東口先生とISDSの私の日本人2人が会長を務めました。東口先生と協力しながら運営でき、とても助かりました。学会だけではなく、IASMEN、ISDSの合同夕食会も日本と海外の外科医が交流を深め、大いに盛り上がりました。またJapan Night, Krakow Nightでは若い先生方の参加も多く、開放的な雰囲気の中で、笑い声の絶えない会となりました。

Business Meetingでは、開会式前の土曜日に一日かけて、ISS/SIC理事会が開催され、会長はProf. HillからProf. Hunterへ交代、Secretary generalはProf. Ken Boffardの留任など幹部人事の紹介がありました。以前のニュースレターでも書きましたが、Hill会長は、低・中所得国(LMIC)の外科医療の支援のため、自らチームを形成し南米やアフリカのLMICsの外科学会に数回参加し、学術支援やWCSへの若手外科医の招聘などISS/SICとの学術協定、又はその準備を精力的に行ってきました。その姿はキリスト教の伝道師の様でしたが、彼の出自の影響があるのかもしれませんが、新会長はその方針を受け継ぐとのことでしたが、財政面での改善にも積極的に取り組むことを明言されました。ISS/SICを財政的に持続可能な国際

学会とするため、手始めとして学会開催費用の節約を行います。例えば、予算の半分を支出していたWCSの運営会社(POC)をスイスの会社から開催国のPOCに変更します。個人的には、本邦の学会のように事務局機能を強化して、POCの一部の仕事を担ってはどうかと思っておりますが、まずは一歩前進です。2021のKuala LumpurでのWCSはISS/SIC CouncilのProf. Abdullah、マレーシア外科学会会長、LOC会長がトロイカ体制で運営するとのことで、財政的にも自信を持っている様子でした。今回のWCSはポーランド外科学会との共催でしたが、参加者増に繋がる新たな試みで、今後もこの形式が定着するものと思います。また、4年後2023年は、メキシコとハワイの2択の可能性が高くなりました。日本人の参加者増に繋がるためハワイを推しましたが、メキシコ外科学会のアピールもかなり強力で支持者も多く、最終的な帰趨は全くわかりません。

さて、今回のWCSはISDSがISS/SICのメンバーとなって丁度50年目ですので、会長講演の枠を使って「Golden years of ISDS」と銘打ち、私とProf. Fichera新会長及びPast Presidentによる50周年記念講演を行いました。5月に急逝された北島先生にもご講演頂く予定でした。秘書の方に伺ったところ、既にしっかり準備されていたとのことで、北島先生らしいと感銘を受けました。Speaker全員が講演の中で北島先生のご逝去に触れましたが、北島先生が如何に世界の外科のリーダーたちに敬愛されていたかを実感する内容でした。

今後ともISS/SIC日本支部の発展と2021年の49回WCSに向けて先生方のご指導とご支援を宜しくお願いいたします。



ISDS理事会にて

国際内分泌外科学会(IAES)からの報告

医療法人 神甲会 隈病院 院長
IAES President

宮内 昭



International Association of Endocrine Surgeons
新しいIAESのロゴマーク

国際内分泌外科学会 International Association of Endocrine Surgeons (IAES) は万国外科学会 (ISS/SIC) を構成する重要な学会の一つです。ISS/SICによる48th World Congress of Surgery (WCS) 2019が本年8月11日～15日にポーランド、クラクフにて開催されました。これは前回まではInternational Surgical Week (ISW) と呼ばれていたものであり、IAESの他にInternational Society for Digestive Surgery, Breast Surgery Internationalなどの学会が参集しました。

IAESは1979年に創立された会員数450人程度と決して大人数の学会ではありません。しかし、高い専門性、会員の学会参加率が高いこと、学会参加者の学会滞在率が非常に高いこと、会員相互の交流が親密であることが大きな特徴です。IAESでは伝統的に“Endocrine surgeons are friendly surgeons”が一つの標語となっています。

さて、IAESは今回のクラクフでの学会から新しいロゴマークを使用しています(上図)。公開募集し作者匿名の元に投票が行われ、大変嬉しいことに私の娘、宮内美和が制作したものが採用されました。今回も約300名の参加があり、学会は大盛況でした。学会のハイライトとして、Haymart教授によるPeter Heimann Lecture, Stalberg教授とLubitz教授による2つのState-of-the-Art Lecturesがあり、Presidentのハーバード大学Doherty教

授の講演はMastery of Endocrine Surgeryと題するもので、「優れた内分泌外科医は最高の知識・技術を持って担当の患者を治療する、マスター内分泌外科医はそのような能力に加えて、まだ見たことのない患者、将来見ることのない患者の治療や健康維持に影響を及ぼすものだ」との格調の高い講演でした。

IAESではヨーロッパ、南北アメリカおよびアジア・オセアニアの各地域からほぼ順番に2年毎にPresidentを選んできました。私は2年前のバーゼルでの学会においてPresident-Electに選出され、今回の学会にてDoherty教授からPresidentを引き継ぎました(写真)。今後2年間、2021年8月のクアラルンプールでのWCS2021まで、IAESが内分泌外科の発展に興味を持った医師達に意見交換の場を提供し、世界中の内分泌疾患の患者とこれを治療する医師達により有用な情報を提供する場であり続け、一人でも多くのMaster Endocrine Surgeonが育つように努力するつもりです。万国外科学会日本支部の先生方にはご支援ご指導をお願い申し上げます。



Doherty教授(左)からPresidential Medalを引き継いだ宮内(中央)。右はSecretary TreasurerのPasiaka教授。

Two Years for The President of IASMEN

藤田医科大学 外科・緩和医療学講座
主任教授

東口 高志



今回、伝統ある万国外科学会 (ISS/SIC) の日本支部ニュースに執筆させていただけることを身に余る光栄と感じております。

2017年、スイスのバーゼルで開催されました The 47th World Congress of Surgery 2017 (WCS 2017) におきまして、若輩者ではありますが International Association for Surgical Metabolism and Nutrition (IASMEN) の President を拝命いたしました。その日から2年間、この重席を全うできましたのも皆さまの暖かいご支援の賜と心から感謝申し上げます。

さて、2019年8月11日～15日、ポーランドのクラクフで開催されました The 48th World Congress of Surgery 2019 (WCS 2019) は、とても素晴らしい国際学会でした。会場となりました ICE 国際会議場は川縁のとても静かで、しかも世界各国からのお客さまをもてなすためのプチかわいいホテルが集まっており、機能性をも重視した形態は本学会にとってもマッチした素晴らしい選択であったと思います。会場からは川向こうにヴァヴェル城が望め、15分ほど歩きますと宮殿からつながるように旧市街が始まります。世界遺産に登録されているだけあり、隅々まできれいで美しい建物と道路が連なります。私はこの素晴らしい WCS 2019 の中で、国際外科代謝栄養学会 (IASMEN) の President として大役を仰せつかることになりました。実は、この役を担当するに際しまして、未熟さ故ではありますが一方ならぬ苦勞がございました。逆にその苦勞のおかげで支部会を率いておられた北野支部長や次期支部長で国際消化器外科学会 (ISDS) の President であられました今野先生に、様々な嘆きをお聞きいただくとともに、密にご相談にのっていただいたことはありがたい心の支えでありました。

思い返しますと、2年前、バーゼルでの WCS 2017 で IASMEN の President を拝命した直後から色々な問題がのしかかっていました。まず、IASMEN の運営に関してほとんど知らされておらず、間違いの連続でした。さらに HP などの広報システムも十分ではなく、数年も変更・更新がなされていませんでした。これでは会員も増加せず、日本からの学会参加も望めるべくもない、といった状況でした。これらを一新すべく、ISS 本体の事務局と連携をとり、何とか HP を更新しました。しかし、コミュニケーションツールが e-mail だけですし、地球の裏側とはよく言ったもので、勤務時

間が上手く合いません。3ヶ月後にやっと新バージョンに切り替えることができた次第です。さらに2017年12月末には、次回の WCA2019 のプログラムの発案の締め切りが迫っていました。IASMEN の Scientific Committee に連絡を取ろうとするのですが、勤務先の変更などで mail が届かず、連絡がとれない状況となりました。しかたがなく、President としての案を IASMEN の Executive Committee にはかり、そして提出しました。この際に日本の精鋭を数多く採用した案を提案させていただきました。後日、Scientific Committee や既に了承してくれたはずの他のメンバーからも動議が提出されて、一部変更となりましたが、骨子は貫くことができ、これは苦勞した甲斐があったように感じています。このようなことを連日の mail でのやりとりになりますから、それなりに心身をすり減らすことになります。一方、ISS/SIC 本体での会議もあります。極東の日本から参加することの難しさを感じました。しかし、これは北野前支部長と今野現支部長お二方の存在が大きく、本当に助けていただきました。あっという間に、2019年が始まり、学会会場での設定の問題や、invited speaker の最終確認や交通費用・謝金の件など、毎日のように mail のやりとりが続き、なんとか本番にこぎつけました。先に述べましたように学会場は素晴らしく、世界のトップが一堂に会する学会だけにご参加の皆さまも素晴らしい方々ばかりでした。そんな中で、President としての最後のお勤めである90分間の Presidential Address を話させていただきました。実はその日の前夜に突然前 President から IASMEN の記念講演の演者の紹介をするスライドを作成するように申し渡されました。急遽作成をはじめ夜明け前に完成したのですが、自身の講演スライドは一切見直すことができず本番となりました。走り込んで済ませたスライド受け付けは開始10分前でした。……中身はともかく、90分後には私の Presidential Address は修了し、これでほぼこの2年間の President of IASMEN としての大役を終了することができました。長いようで短く、短いようで長い2年間でした。このような貴重な経験をさせていただきましたのも、万国外科学会日本支部会の先生方の暖かい温情とご支援の賜であります。ここに厚く御礼申し上げます。また、今回の大役を完遂すべく身に余るご指導を賜りました故北島政樹先生に深く感謝申し上げますとともに、心より哀悼の意を表したいと存じます。本当にありがとうございました。



クラクフのヴァヴェル城
学会会場から徒歩10分ほどの所にあり、最大の観光スポット。



ISDS / IASMEN MAIN SESSION S1
Auditorium ENHANCED RECOVERY AFTER SURGERY (ERAS)/東口高志先生



ISS/SIC General Assembly



Welcome Reception

8月11日から15日、ポーランドのクラクフにてWCS2019が開催されました。日本からも多くの外科医が参加し盛会のうちに終了いたしました。



ICE Krakow Congress Centre



Presentation of Travel Scholars



The Council meeting



BSI MAIN SESSION BREAST CANCER IN YOUNG WOMEN: FROM EPIDEMIOLOGY TO SURGICAL MANAGEMENT /井本滋先生



Krakow Night at the Old Tram Depot



ISS/SIC Travel Scholar Reception



Congress Opening

Yokohama Award of ISS/SIC Japan Chapter WCS2019 Krakow 受賞者紹介

Yokohama Award は ISW2011 Yokohama の余剰金を基金とし、若手外科医の WCS への参加を支援する目的で創設されました。WCS に優れた演題を提出した 40 歳以下の外科医に授与されます(応募には日本支部会員による推薦が必要)。第 4 回である Yokohama Award WCS2019 Krakow は応募抄録の厳正な審査の結果、次の 5 名の先生が受賞しました。

受賞者は ISS/SIC Foundation Travel Scholarship をはじめとする他の Travel Award 受賞者とともに WCS2019 Krakow 2 日目 Presentation of Travel Scholars での表彰式に参加し、北野日本支部長からの紹介、証書の授与を受けました。



国立がん研究センター中央病院 肝胆膵外科
東京医科歯科大学 肝胆膵外科

赤星 径一

この度、ポーランド・Krakow にて開催された WCS2019 において第 4 回 Yokohama Award を受賞させていただき、大変光栄に存じます。WCS 関係者の方々、当教室の同僚、田邊教授に心より感謝申し上げます。

私は肝胆膵外科の臨床と並行して非ウイルス性肝癌のトランスレーショナルリサーチを進めております。ウイルス性肝炎治療の進歩に伴い、肝癌の発癌背景として非ウイルス性が占める割合が増加傾向にあり、ウイルス性と異なる発癌メカニズムが指摘されています。今回は 500 例超の臨床データ解析を行い、非ウイルス性肝癌は糖尿病・肥満といったメタボリック症候群の罹患率が非常に高く、また正常肝からの発癌割合が高いといった非ウイルス性肝癌の特徴を発表しました。

WCS は世界 100 カ国以上から外科医が参加しており、普段知ることの難



しい各国の医療事情を一覧できる非常に貴重な機会でした。Award 授賞式や ISDS の会食などの機会にエクアドルの Zambrano 先生と肝移植医療について意見交換をしたり、韓国の Han 先生に外科医の心得を教えていただいたりして世界の外科医たちと交流できたことは大変貴重な経験となりました。また、同じく Yokohama Award を受賞した岡田先生や中堤先生らと横のつながりを強化できたことも大きな財産となりました。

このような貴重な機会を与えてくださり、万国外科学会日本支部の皆様へ深く御礼申し上げます。このご恩をお返しできるよう今後とも精進してゆく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。



名古屋第二赤十字病院 移植内分泌外科

岡田 学

万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。名古屋第二赤十字病院 移植内分泌外科の岡田学と申します。私は学生時代から、腎疾患と腎移植に興味を持っておりました。平成 19 年に三重大学医学部医学科を卒業し初期研修、一般外科研修を経て、現在は主に副甲状腺・甲状腺外科および腎移植手術に携わっております。今回、私は二次性副甲状腺機能亢進症に対する手術時期が腎移植患者の腎機能およびカルシウム代謝に与える影響について発表させていただきました。

YOKOHAMA AWARD をいただいたことは私自身にとって大きな励みとなり、モチベーションの向上につながりました。慣れない英語での口演発表はつらく、質疑応答にかなり苦勞をしましたが何とかやり遂げることができました。また、様々な国からの発表を聴くことが出来、自分が着目



していなかった点に気づきを得て、同一疾患に対するアプローチの日本と海外における違いなども感じることもあり大変興味深かったです。

また、私事ではありますが、今回の学会で研修医時代の同期の一人が同じく YOKOHAMA AWARD を受賞し、学会場で再会することができたことも非常に感慨深かったです。

今回の経験を活かして、これからも研鑽を続けていきたいと考えております。貴重な機会を与えてくださったことに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



視認性と吸収性が求められる術後創へ

ロイコメドC

フィルムドレッシング

ハイドロゲルパッドが視認性と吸水性を提供

- 創の観察を容易にする視認性
- 湿潤環境を維持するための適度な吸水性
- 固定性と肌への優しさ

THERAPIES. HAND IN HAND.

BSN medical

TERUMO

テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 2-44-1 www.terumo.co.jp

詳細は添付文書をご参照ください。Leukomedはビー・エス・エヌ・メディカル社(ドイツ)の登録商標です。©テルモ株式会社 2016年6月

プロトンポンプ・インヒビター
エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセル・懸濁用顆粒
ネキシウム® カプセル10mg/20mg
懸濁用顆粒分包装10mg/20mg

薬価基準収載 処方箋医薬品(注)

(注) 注意—医師等の処方箋により使用すること
効能・効果、用法・用量、効能・効果に関連する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

販売元(資料請求先)

第一三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3-5-1

製造販売元(資料請求先)

アストラゼネカ株式会社
大阪市北区大深町3番1号

0120-189-115
(問い合わせフリーダイヤル/メディカルインフォメーションセンター)

大阪市立大学 大学院医学研究科 救急医学

内田 健一郎

万国外科学会御所属の先生方におかれましては、各分野で変わらず御健勝のことと存じます。

この度2019年8月にKrakowで行われました第48回 World Congress of Surgeryにおきまして、Yokohama Award of ISS/SIC Japan Chapterを受賞させて頂きました。このような貴重な機会を頂き、誠に光栄に存じます。

今回は胸部外傷分野における研究内容で、多発肋骨骨折やフレイルチェストなど重症胸壁損傷に対し、最近世界でも良好な短期成績が報告されているPlate & Locking Screwによる観血的肋骨固定術の自施設での長期成績について発表させて頂きました。こ

れまで長期間の人工呼吸管理や気管切開を余儀なくされていた患者が術後早期に抜管でき、さらには多くの方が受傷前の仕事や日常生活レベルに戻っていたことが示せたのみならず、このような受賞に結びついたことは喜びの極みであります。

また今回は、名古屋第二赤十字病院で研修医の同期として共に研鑽した岡田学先生とも同時受賞を頂くという、これ以上ない思い出と更なる奮起の機会となりました。DSTCのFacultyをご一緒している海外の諸先生にも祝いの言葉を頂けたことは大きな自信となりました。

外科医として外傷を勉強したいと門を叩いた時から多大なご指導を頂いている溝端康光教授には、この場を借りて心から謝意をお伝えしたく存じます。

改めまして、このような大変貴重な機会を頂き、ISS/SIC関係者の皆様に深く御礼申し上げますとともに、より一層臨床、研究に精進する次第です。



東京医科歯科大学医学部附属病院 救命救急センター

中堤 啓太

万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、御健勝のこととお慶び申し上げます。この度は2019年8月に開催されました第48回 World congress of surgeryにおきまして、Yokohama awardを受賞させて頂き、大変光栄に感じております。

私の発表内容は、下部消化管穿孔に対する緊急手術後の予防的創部陰圧閉鎖療法の有用性についてです。単施設の後ろ向き観察研究ではありますが、質の高い臨床研究が少ない緊急手術領域においてEvidenceの蓄積の一助となればと考えています。

現在、私は東京医科歯科大学医学部附属病院救命救急センターにおきまして、Acute care surgery分野に従事させて頂いております。このような賞を受賞することが出来たのは、一重に上司、同僚からの指導、協力があればこそと感じています。この場を借りて御礼申し上げます。

今後も、日本で外科の一分野として救急外科領域が確立していくためにも、若輩者の身ではありますが、臨床、研究分野ともに研鑽を積んでいきたいと考えております。今回はこのような貴重な機会を頂きまして、本当にありがとうございました。



近畿大学医学部附属病院肝胆外科 助教

吉田 雄太

万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、2019年8月にポーランド、クラクフで開催されましたthe 48th World Congress of SurgeryにおきましてYokohama Awardを受賞させて頂き、大変光栄に存じます。荣誉ある賞を賜り、ご推薦いただいた慶應義塾大学和田則仁先生含め関係各所の方々に心より御礼申し上げます。

今回、Significant reduction of postoperative pancreatic fistula using transpancreatic mattress sutures with Vicryl mesh ~ A novel surgical technique of stump closure after distal pancreatectomy ~ と題し、膵体尾部切除術時の新しい膵断端閉鎖法として、バイクリルメッシュを用いた膵貫通マットレス縫合による方法の有用性を検討いたしました。本研究では従来法とは全く異なるコンセプトで断端処理を行うことで膵液瘻発生率に有意な低下を認めました。今後もさらなる膵液瘻発生率低減に向けて工夫を凝らしていければと考えております。加えて本研究は当教室の竹山宜典教授と直接指導いただいた松本逸平准教授が行ってきた業績に基づいており、この場を借りて深く感謝申し上げます。

開催地のポーランドは全くの異国の地であり、私にとって初めての海外学会発表ということもあり、幾分不安な気持ちでございました。しかし優雅なヴィスワ川のほとりに佇む美しいヴァベル城を望む会場で参加されている先生方のフレンドリーな雰囲気の中、発表することができました。大変貴重で、有意義な経験となりました。

最後に、このような機会をいただき、万国外科学会日本支部の皆様を重ねて深く御礼申し上げます。



すべての革新は患者さんのために

CHUGAI 中外製薬 | A member of the Roche group

at the Front Line CHUGAI ONCOLOGY

AVASTIN® bevacizumab

日本標準商品分類番号 874291

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF^{注1)}ヒトモノクローナル抗体

生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品^{注2)}

薬価基準収載

アバステン[®] 点滴静注用 100mg/4mL 400mg/16mL

AVASTIN® bevacizumab

ベ/バスズマブ(遺伝子組換え)注

注1) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor(血管内皮増殖因子)
注2) 注意—医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕
製造販売元 中外製薬株式会社 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1
ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。
https://www.chugai-pharm.co.jp/

2017年9月作成

第45回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会 議事録

2018年4月20日(土曜日)午前7:15~8:00
於: 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)7階702

出席者: 猪熊孝実 猪股雅史 今井常夫 井本 滋 白杵尚志 岡本高宏 掛地吉弘
北川雄光 北島政樹 北野正剛 窪田敬一 小寺泰弘 今野弘之 島田英昭
鈴木真一 竹内裕也 田邊 稔 夏越祥次 野村幸世 馬場秀夫 東口高志
福島亮治 藤田 尚 松原久裕 溝端康光 宮内 昭 宮澤光男 村尾佳則
矢永勝彦 山本雄造 吉田和弘 和田則仁
(敬称略、五十音順、計32名)(事務局: 奥田京子)

1. 支部長あいさつ 北野正剛日本支部長
2. 前回議事録の確認
3. 支部活動報告
4. 決算・予算案 原案(ニュースレター48号に掲載)通り承認された
5. ISS/SIC 理事会報告

北野日本支部長: WCS2019では1,214の演題が登録された。日本からは91演題で第4位であった。ISSの課題である会員の勧誘に関して、国ごとに会費設定額を変える案があり、インド、中国あたりからメンバーが増えてくる可能性もある。日本の会員数は現在2位であるが、ますます日本の立場を確固たるものにするためにも会員数を増やしていきたい。また、次回2021年は、8月29日-9月2日にマレーシアのクアラルンプールで開催。参加しやすい場所であるので、さらに参加と協力をお願いしたい。

6. YOKOHAMA AWARD について
今回で4回目。厳正な審査の結果、5名が選出された。次回のクアラルンプールに向けて若手の先生方に積極的に働きかけていきたい。
7. World Congress of Surgery (WCS)2019 について
8月11日-15日、ポーランドのクラクフにて開催予定。日本支部としては、JAPAN NIGHTを企画している。今回は会費制で開催し、家族で参加頂けるように計画中。

8. Collective Member Societies

IAES 今井常夫先生

IAESには273題の応募があった。2月から3月にかけて選考を行っているが全体の採用数はまだ分からない。次回クアラルンプールでのIAES会長を隈病院の宮内先生がされる。

宮内先生

2年前のパーゼルの学会にてプレジデントエレクトに推挙され今年のクラクフの会にてプレジデントになる予定。クアラルンプールではマレーシアの厚生省関係の要人をしてNoor Hisham Abdullah先生がLOC会長であり、以前から親交が深く、大変楽しみにしている。ひき続き、皆様にはご支援をお願いしたい。

IASTIC 溝端康光先生

2019年からカウンセラーに帝京大学の藤田先生がなられる。アジア地区からは、すでにマレーシアがカウンセラーとなっていたが、アジア地区から一人というルールを改正し、日本もアジアのカウンセラーとして認められた。例年開催しているDSTCコースも日本外傷学会の前にあわせ、開催する。Ken Boffard先生やIASTICの次期プレジデントのElmin Steyn先生も来日予定。

IASMEN 東口高志先生

WCSの2週間後に同じ場所で行われるESPENの開催日時を近づけてもらえるよう要請したが難しかった。WCSでは、司会者を含め日本人は9名、韓国からは2名採用されており当初のプラン通り進んでいる。ERASという周術期の栄養管理をメインにおきながら、ボディーコンポジションの研究が日本は進んでいることから、タンパク代謝を追求したセッションを前面に掲げている。

BSI 井本滋先生

演題数は127題が登録されているとの事。8月11日2つのエデュケーショナルコース、Innovation surgery・Oncoplastic surgeryが開催される。Innovation surgeryを担当する。ラジオ波やCryosurgeryなどの教育として企画している。いつもは手術が中心だが若年者乳癌に対する治療、再建等、総合的に企画を練っている。

ISDS 今野弘之先生

プログラムはほぼ完成しているが、次期会長のFichera教授からプログラム担当をお願いしても、引き受けて頂けなかった日本の先生方もかなりいると連絡があった。この事も踏まえ、調整し日本人をできるだけ多く入れるように交渉した。ある程度、思い通り若手を中心に入れることができた。ポーランドの先生方とのパネルディスカッションや、例年通りKitajima Prize、Grassi Prizeも予定している。国際貢献に関して、低所得国の外科医療にISDSが中心となって支援すべきとの要請があるが、資金や時間のかかることであり、なかなか厳しく、対応に苦慮している。

また今年で、ISDSは万国外科学会加盟50年となる。過去のISDS Presidentをお迎えし、記念講演を予定している。

9. その他

北島政樹先生 各支部会からの報告がWCSの現状を意味している。以前は、アフリカなどの国に、人を送ることは難しいが本を送るなどして活用してもらった。伝統あるこの会を皆さんのご支援でこれからも盛り上げていきたい。

北野日本支部長 この度、支部長を退任させていただく。北島先生はじめ事務局和田先生にサポート頂きながら4年間務めさせていただいた。ISSの運営については、日本の立場からしっかりと意見を言う事も大切であり、改革のためにも、皆様方のご支援が必要である。先般の理事会で後任が承認され、次期支部長には今野学長にお引き受けいただいた。

皆様方のご支援ご協力に心から感謝を申し上げます。

以上(文責 和田則仁)

World Congress of Surgery (WCS) 2021
2021年8月29日-9月2日 Kuala Lumpur

ご案内

2021年8月29日(日)-9月2日(木)の5日間、マレーシアのクアラルンプールにおきまして、World Congress of Surgery・WCS2021が開催されます。日本の皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

～クアラルンプール～
地元では「KL (ケーエル)」の愛称で親しまれる首都・クアラルンプール。旧クアラルンプール駅を中心に広がる英国統治時代の美しい建築物とペトロリアスタワーをはじめとする近代建築と自然が息事に調和された美しい都市です。市内は交通機関が充実しており、主な観光スポットへは公共交通でアクセスが可能です。



主な日程(予定) 学術集会 8月29日-9月2日
8月29日(日) 17:00 オープンセッション・レセプション
20:00 Japan Night (日本人参加者懇親会)
8月30日(月) 8:00 Travel Scholars 紹介
19:00 Kuala Lumpur Night (全体懇親会)
8月31日(火) 19:00 ISDS, IAES, IASTIC, BSI, ASAP, IASMEN 各学会夕食会
9月1日(水) 12:15 ISS/SIC 総会

演題登録締め切り 2021年1月29日(金)
日本支部のウェブサイトにも随時情報を掲載します。http://www.wss-jp.org/

Yokohama Award
5名程度 Award一人当たり10万円

ISS/SIC日本支部は、日本からの若手外科医のWCSの参加を支援しています。応募条件は、応募時点で40歳以下の日本人外科医で、①WCS2021クアラルンプールにOralの演題を提出、かつ②ISS/SIC日本支部会員からの推薦があること、です。

詳細は日本支部のウェブサイトをご参照ください http://www.wss-jp.org/



自然と健康を科学する。漢方のツムラです。

株式会社ツムラ

https://www.tsumura.co.jp/

●資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。
【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970
【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930



血液凝固阻止剤
アコアラン 静注用600・1800

ACOALAN[®] Injection
600国際単位、1800国際単位/バイアル
アンチトロンビン ガンマ(遺伝子組換え)静注用

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元 協和キリン株式会社
販売元 一般社団法人 日本血液製剤機構

2019年9月作成

【文献請求先及び問い合わせ先】 日本血液製剤機構 くすり相談室
〒105-6107 東京都港区浜松町2-4-1 医療関係者向け製品情報サイト https://www.jpbo.or.jp/med/di/

高カロリー輸液用 糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン・微量元素液
処方箋医薬品* 薬価基準収載

エルネオパ[®] NF1号輸液
エルネオパ[®] NF2号輸液

ELNEOPA-NF No.1 Injection
ELNEOPA-NF No.2 Injection *注意-医師等の処方箋により使用すること



ビタミンB1・糖・電解質・アミノ酸液
処方箋医薬品* 薬価基準収載

ビーフリード[®] 輸液
BFLUID[®] Injection *注意-医師等の処方箋により使用すること



◇効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 株式会社大塚製薬工場 徳島県鳴門市撫養町立字芥原115
販売提携 大塚製薬株式会社 東京都千代田区神田町2-9

資料請求先 株式会社大塚製薬工場 輸液Dセンター
〒101-0048 東京都千代田区神田町2-2
(17.08作成)